

石塚、遮熱シート拡販

熱中症対策 作業効率を改善



溶鉱炉への施工

プラスチック製品の加工販売、リサイクルを手掛ける石塚(本社=東京都千代田区熊谷弘司社長)は、夏場の熱中症対策製品として展開する遮熱シート「サーモバリアフィット」の拡販に注力している。工場や倉庫といった施設内にある乾燥炉や機械、屋根から生じる熱を大幅に削減する製品で、施設内の暑さ対策に限らず、作業効率の改善も期待できる。

金属業界でも採用進む

サーモバリアフィットは、ガラスクロス繊維に特殊な樹脂シートを合わせ、両面にアルミ箔を施した不燃シート。耐熱性能は最大210度で、乾燥炉や機械から出る輻射熱を97%カットする。国土交通省の不燃認定を取得しているほか、厚みは0.2mmで軽量性にも優れる。

カーテンやカバー状など、現場に応じてさまざまな形状に縫製加工が可能。施工した設備の内部を視認できるように、要望に応じて耐熱性の透明フィルムも取り付けられる。さらに長年のプラスチック製品の製造販売で培った知見や各種許可を生かし、現場調査から仕様決定、加工、取付工事までを自社内で行える。

金属業界の製造現場でも採用が進む。ある鉄鋼メーカーでは、キューボラ(溶鉱炉)の表面にサーモバリアフィットを施工。炉の表面温度は施工前の約230度から、施工後は約25度に低下した。さらに作業員の負担軽減で、生産量が施工前と比較して13%向上する効果も出ている。

厚生労働省の職場の熱中症対策義務化に対応し、6月には専任の営業人員を拡充。全国各地で迅速に販売が可能な体制を整え、熊谷社長は「今夏は昨年比1.5倍の販売量増加を目指したい」と語る。

PCB廃棄物適正処理へ 環境省、方向性定める

環境省が先月24日に開催した中央環境審議会循環型社会部会廃棄物処理制度小委員会(第6回)では、今後の廃棄物処理制度の検討に向けた中間取りまとめ結果を踏まえ、廃棄物の方向性なども盛り込まれている。

検討事項の一つは高濃度PCB廃棄物の新たな処理体制の確保。前処理技術の実証試験結果を踏まえ、廃棄物の基準追加を検討すべきとする案を示した。新たに発見された高濃度PCB廃棄物は引き続きその保管や処分状況などを保管事業者と処分を行う者が都道府県知事に届け出ることとする。自治体による行政指導や

高濃度PCB廃棄物に該当すると知った日から一定期間内に処分事業者へ処分の委託をすることを義務付ける。低濃度PCB含有製品の管理制度も創設する方針が示された。所有事業者と処分を行う者に對して管理状況の防衛のための管理基準を定めるほか、所有事業者の変更も事前の届け出を義務化して確実に管理する。

保管事業者の倒産などへの対応も想定した仕組みも必要になる。所有事業者には低濃度PCB廃棄物を一定期間内に処分の委託を行う。

品名	単位	価格(円)
アルミスクラップ	トン	330
鉄スクラップ	トン	326
銅スクラップ	トン	306
ステンレススクラップ	トン	332
鉛スクラップ	トン	348
亜鉛スクラップ	トン	268
ニッケルスクラップ	トン	278
コバルトスクラップ	トン	218
モリブデンスクラップ	トン	288
タングステンスクラップ	トン	330
マンガンスクラップ	トン	326
クロムスクラップ	トン	306
バナ듐スクラップ	トン	332
ニオブスクラップ	トン	348
タリウムスクラップ	トン	268
セシウムスクラップ	トン	278
ラジウムスクラップ	トン	218
アクチニウムスクラップ	トン	288

アルミスクラップ動向

7月第1週のアルミ原料は基本キロ515円上げ。7月前半のメーカー唱えは510円上げだが、原料不足のためプラアルファで値を付けている。輸出系が高値で原料を購入しているため、原料確保のためメーカーは買値を引き上げざるを得ない状況にある。製品価格が下落しているため、本来であればメーカーは原料価格を引き下げた。一方で、輸出系は輸入が考えられないと話す。原料不足を解決する手段として、原料の輸入が考えられる。ただ、税の影響などで製品需要の下振れ懸念がある中では「輸入物には

日刊産業新聞公式 Instagram はじめました

Instagram

取材先の写真や情報を配信しています。ぜひご覧ください。

SANCYO_PRESS Follow Me!!